

未来へつなぐ

Education for
Sustainable Development
Coordinator Project

no.6

発行日：2014 年 10 月 7 日

発行：認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）

2005 年から始まった「ESD の 10 年」が今年で最終年を迎えます。しかし「持続可能な社会」をまだ手にできていない以上、ESD の必要性はますます高まっています。国際社会は 2015 年以降も ESD を世界で取り組むことを宣言し、日本政府も ESD 関係者も、来年度以降の ESD 展開に向けたビジョンを描きつつあります。その広がりとなるのが「ESD コーディネーター」です。

昨年度、現場 OJT に
よる養成研修を行っ

た 4 地域（北九州、
広島、岡山、茨

城）ではコー
ディネーター

の活躍によっ
てくみんなが

互いに元気に
なる学びあい

の渦が起こ
り始めていま

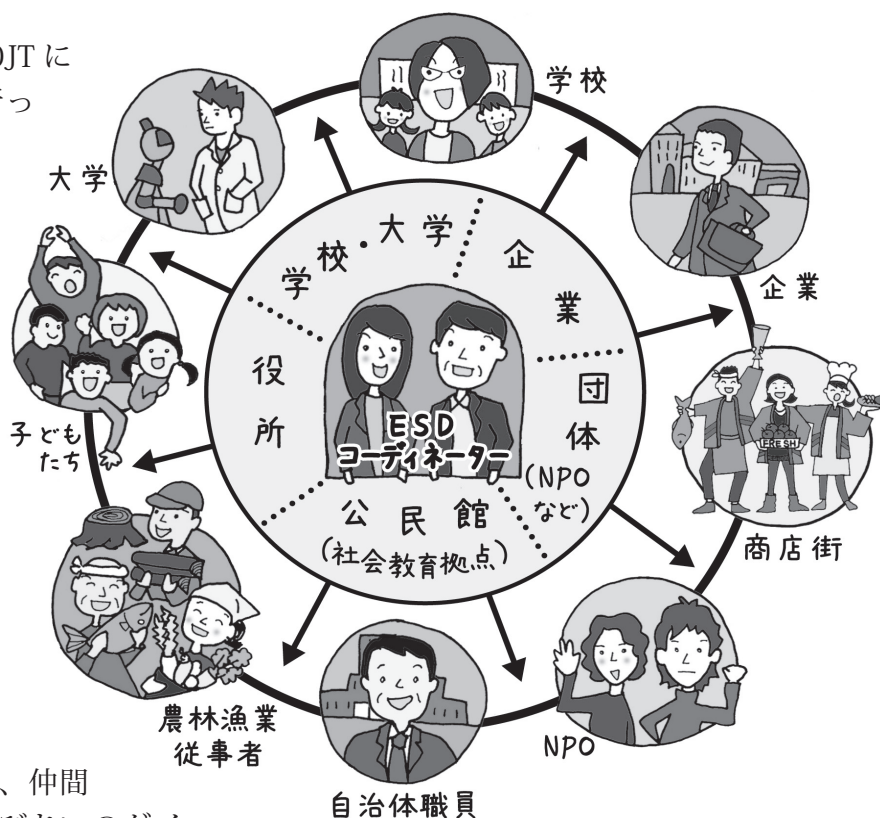
す。まずみん
ながゆるく集

まり、立場や
分野を超えて語

合う場がつけられ、仲間
の関係ができ、学びあいのダイ

ナミズムが生まれお互いに元気になっていきます。その中から生まれた持続可能な
地域を目指すプロジェクトがじんわりと熟成されると、地域のいたるところで元気
パワーが広がっていきます。今号はそんな広がりをご紹介します。

北海道から沖縄まで全国の津々浦々を結んでこうした学びあいの渦を起こし広げ
ていくために、10 月に岡山で、11 月に名古屋で開催される「ESD に関するユネス
コ世界会議」関連イベントでも、コーディネーターの役割や育成に関する議論が行
われます（P5、P8 参照）。2014 年秋を起点に ESD のつなぎ手のネットワークをつくっ
ていきましょう！



つなぎ手のネットワークで
学びあいの渦を

（上図）地域の学校や企業、公民館、さまざまな場で活躍している ESD コーディネーター。
そのコーディネーターが地域のハブとなり、多様なマルチステークホルダー（学校、大学、商店街、農林漁業従事者、
子どもたち、自治体職員、企業、NPO ……）たちをつないでいきます。

Contents

- p2-5 ESD コーディネーターが活躍すると（広島、茨城、北九州、岡山）
- p6-7 ESD コーディネーターのスキルアップへ
- p8 つなげひろげる ESD コーディネーター研修を企画しませんか

小さなマルシェが街を開く ～ EXPO 東千田の取り組みを例に～

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク理事 河野 宏樹

空き店舗でマルシェを



マルシェで賑わう空き店舗

全国的に 1980 年代後半より、商店街の衰退による空き店舗の増加が社会問題になっています。広島市中心部も例外ではなく、1959 年に発足した千田商店街は 2012 年に法人解散しました。その一方、近年では都市型ファミリー向けマンションの建設が相次ぎ、住民の属性が年々変化しています。

このような社会情勢の中、東千田地区でサンドイッチ店を営む K さんは、同じ地区にあるいくつかの商店に声をかけ、空き店舗を活用しながら小さなマルシェを開催することを提案しました。K さんは時を同じくして、「地域コーディネータースクール」にも参加。参加者の中でチームを作ってこのプロジェクトを支援することになりました。

マルシェのネーミングは「EXPO 東千田」。東千田界隈の店舗や関係のある作家も巻き込んで、「小さいながらも大きな賑わい」を演出することを目指しました。出店は雑貨・サンドイッチ・焼き菓子・アクセサリー・古着の販売、ぬり絵ワークショップ、習字や洋裁の体験、綿あめ作り、似顔絵と多彩な顔ぶれ。当日は約 300 人を超える来場者が東千田地区を賑わせることに成功しました。

テーマと地域のしあわせな出会い

地域コーディネータースクールでは、「テーマと地域のしあわせな出会い」をコンセプトに、「地域の持続可能性ってなんだろう？」を考えていきました。K さんにとっての「持続可能性」とは、「肩肘はらずに、マルシェのようなゆる～い空間を、地域で提供すること」。これまでの大規模商店街とは違い、隣三軒の商店がお互いに連携を取りながら、小さなイベントを開催していく中で「地域の持続可能性」というキーワードが見えてくるのではないかと考えます。



コーディネーターは地域の外からも

今回の地域コーディネータースクールで作ったプロジェクトチームには、K さんの他にも地域外のコーディネーターも加わりました。地域外のコーディネーターが加わることによって新しい視点が生まれる一方、地域の人に受け入れられるための密接なコミュニケーションが必要となります。地域の自発的な活動を、適切に支援するコーディネーターが、「テーマと地域のしあわせな出会い」にとって重要な役割を果たしています。今後も継続して EXPO 東千田は開催予定。地域の住民や常連客の中からコーディネーターの役割を担う人材が現れれば理想的と考えています。

これからの学びネットワークへのお問合せは
Tel 070-5674-4786
メール kono@koremana.net
ホームページ <http://koremana.net/>

異分野のキーパーソンが集うと共創空間が生まれる

認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ事務局長 横田 能洋

地域の遊休スペースを市民の学びの場にかえる

地域には、廃校、空き店舗、ビルの空きフロアなど、活動や学びの拠点になりうる空間がたくさんあります。地域貢献したい企業もあります。けれどそれぞれが別々の拠点で活動しているため分野を越えてつながる機会が少なく、活動がマンネリ化してしまったり、人や場所や資金が足りないという課題につながります。

茨城での「ESD コーディネーター研修」には、まちづくりに関心のある行政マン、場所をいかしたい企業オーナーや金融機関の CSR 担当、フェアトレードを広めたい NGO など、多様なキーパーソンが集まりました。ビルの空きスペースを使い、誰でも参加できるフューチャーセンターセッションを実施。コーディネーターが人をつなぐ仲人に徹した結果、グローバルフェスタなど、いくつかのコラボレーション企画が実現しました。



グローバルフェスタいばらき 2014

多様性と柔軟性を大事にして人と活動をつなぐ

未来を
変えたい
と思う人

多様なNPO

企業CSR担当

行政の企画担当者

民間団体

大学の地域連携担当

市民

メディア

12月1日はNPO法
施行から15年です。
そこで722まで増えた
県内NPOの法人と種々
なセクターの人が交流
できる場を開催しま
す。
フューチャーセンターは
組織を超えて未来
志向で対話し、関係
性と共創の種をつくり
ます。

ここにすれば、NPOの
本当の可能性、地域
の未来、仲間が見つ
かれます。

認定NPO法人
茨城NPOセンター・コモンズ
事務局 029-300-4321
TEL: 029-300-4321
FAX: 029-300-4320
info@npocommons.org

12月15日 (日) 13:30~16:30
会場 トモス水戸 東館ビル4F (水戸市大字町1-2-3)
フューチャーセンター ∞ 茨城
「NPOが拓く わたしたちの未来」
セッション1: この15年の各団体の変化、経験を共有する
セッション2: これからの関わり合い、協働の人のための会
セッション3: 関心あるテーマごとに、事業アイデアを交換する
セッション4: 未来サマングに支援者は現れるか
共創で地域の未来を拓く、市民社会のコーディネーター
COMMONS

昨年12月に開かれたフューチャーセンターセッションの案内

セッションでは、小学生も一市民としてプレゼンし、学生の提案に企業の社長が叱咤激励したりしました。普段ワークショップに参加しないような人も地域の大事なアクター。こうした人を招くこともコーディネーターの役割です。多様な視点から得られる刺激とアイディアに賛同してくれる味方が得られると、コトは自然と動き出します。発案した人の主体性を大事にしながら手伝うことで、企画が形になるという成功体験を共有すると、仲間の関係ができていきます。

こうした場づくりを通じて、組織の枠を超えて関わりあうプロセスを学びながら変化を起こすことが、研修の柱でした。組織の縦割りは市民の現場にもあります。「その課題は自分には関係がない」、「そのやり方は自分たちとは違う」といったセクショナリズムや心の壁を取り除いていくことが大事です。単にリソースを出し合うだけでなく、課題を多面的に検討することで、活動の深みが生まれ、それが多様な人の参加を促し、持続性にもつながります。

活動して地域の課題に気づき、そこから学ぶ

イベントの成功がゴールではありません。イベントで出会えた人と次に何ができるか、活動で生まれた変化を関係者にどう伝えるか。つづきや出会い、前向きな提案があったら、すぐに判断しないでどうしたらそれをいかせるか、どことどこがつながったら無理なくできそうか、組合せを常に考えること。ESDの活動に終わりはありません。

茨城 NPO センター・コモンズへのお問合せは
Tel 029-300-4321
メール info@npocommons.org
ホームページ <http://www.npocommons.org/>

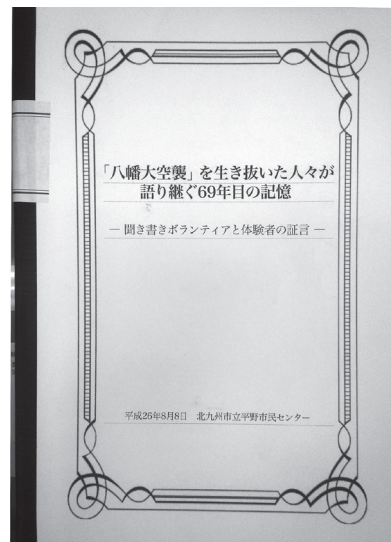
使命、自信、スキルが学びあいの渦をおこす

ESD-J コーディネーター PJ 担当理事 森 良

個の暮らしの記憶を地域の財産として引き継ぐ

地域の記憶を記録として残すこと（アーカイブ化）があちこちで行われています。その意味は、アーカイブを活用して記憶の社会化を図り、地域教育として広げていくことによって、まちづくりや地域文化の創造につなげていくことにあります。

北九州市立平野市民センター渡辺館長は、昨夏以来、八幡大空襲の体験者たちの「時間がない」「語ることができなくなってしまう」というつぶやきが気になっていました。なんとかこのつぶやきを形にすることができないかと思いあぐねていたときに、北九州 ESD 協議会から「ESD コーディネーター研修」の案内が届き、思いを企画に変えていく工程と出会いました。そうしてその企画の中で誕生したのが、「初めての聞き書き講座」「聞き書きボランティア養成講座」です。その成果は『「八幡大空襲」を生き抜いた人々が語り継ぐ 69 年目の記憶』という 250 部の冊子として図書館をはじめ地域に行きわたっています。



学びあいを通してお互いが元気になっていく

渡辺館長は、研修の中で講師や同僚たちから自分の企画が評価されたことによって自信が生まれ、「よしやってみよう」と講座を起こしました。講座の中で空襲体験者たちは生き生きと語り、もっと伝えたいと元気になっていきました。聞き書きをしたボランティアたちも自分たちの役割を確認することができ、この動きはどんどん大きくなっていきそうです。

この経験は ESD コーディネーターの大切な役割を語っています。当事者、当事者から学ぶ学習者、学んだことを社会化するための講座という出会いの場、学んだ成果を地域に広げるツールの活用、といった要素が、



聞き書きの様子

＜個の暮らしの記憶を地域の財産として引きつぐ＞という使命によってつながれることで学びあいの渦が起きはじめたのです。

過去から学び現在を点検し未来を描く

北九州の ESD は、公害を克服した婦人会をはじめとする市民、自治体、企業、研究者のパートナーシップを母体として進められてきました。公害の克服の成果はまた、工業化の光と影を圧縮して体験しつつあるアジアの人たちと共有されています。こうした地域の独自の歴史とアジア・世界とのつながりをこれからの地域づくりに活かしていくためにこそ、過去から学び現在を点検し未来を描く、という ESD の学びあいが求められているのです。

北九州 ESD 協議会へのお問合せは
Tel 093-661-2133
メール k-esd@k-esd.jp
ホームページ <http://www.k-esd.jp/>

世界という視野、地域の内外という視点で学びをつなぐ

岡山市立中央公民館 指導係主任 重森 しおり

まず公民館職員がコーディネーターに



岡山市にも「コーディネーター」と呼ばれる人はたくさんいます。それぞれが所属している団体、グループ、個人や活動をつなげる役割を果たしています。

しかし、地域にある課題は複雑に関係しあっていて、1つの団体だけで解決することはできません。地域のさまざまな人や物が関わることで、少しずつ良くなっていきます。岡山市では、地域(中学校区)にある公民館が拠点となって、まずはそこで働く職員が「地域のコーディネーター」になれるよう研修等を行い、ESDを進めています。

岡山市の公民館職員は、地元採用ではなく5年を目処に異動があります。なので、地域の人たちにとって見れば「ヨソモノ」です。だからこそ、これまでの経験やつながりを活かした取り組みや視点を地域に吹き込みながら、フラット(中立)な立場でいることができます。一方で、地域課題に取り組む一員としての自覚を持つことも大切です。

「私はコーディネーターだから」と、活動する人たちの外にいたのでは、本当に必要とされるコーディネートはできないし、地域の担い手を育てることもできません。地域住民と一緒にあって地域を歩き、地域の良さを探して共有することを大事にしています。

分野横断的な学びと活動へ

これまで分野中心の事業を進めてきましたが、分野横断的な活動へ広げることが大切だと感じています。入口が「国際理解」の場合でも、単にいろいろな国の状況を知るだけでなく、女性問題、環境、食など、様々な視点から物事を見て話し合う場づくりを進めることを心がけています。「地域」という視点で活動する中に「世界」の視野が入ることで、関わる人や活動を広げることができます。そのための学びと活動の場として公民館があり、ESDの視点をもったコーディネーターが活躍することで、より豊かな地域を創っていくことができるでしょう。

とはいえ、中学校区という広い地域を公民館職員だけでコーディネートするのは無理があります。今後は、コーディネーターとして活躍している人や地域のリーダーたちとESDを共有し、10月の国際会議もその1つのきっかけになればと準備を進めています。

ESD 推進のための公民館 CLC 国際会議

～地域で学び、共につくる持続可能な社会 (10月9日～12日/岡山市)

CLCとは、Community Learning Centreの略。アジアを中心に設置されている地域の学びの場で、日本の公民館とよく似た機能を持っています。2日目の分科会の「政策・マネジメント・スタッフの能力向上」において、岡山市の公民館職員へのESD研修が紹介されます。



ESD コーディネーター研修の様子

岡山市立中央公民館へのお問合せは

Tel 086-272-7886

メール chuoukouminkan@city.okayama.jp

ホームページ http://www.city.okayama.jp/okayama/okayama_00078.html



ESDコーディネーターのスキルアップへ

映像教材制作の思いとこれから、新規制作進行中です！

昨年度から制作がスタートした、ESD コーディネーター養成のための映像教材。今年 3 月に「ESD コーディネーターの 7 つのスキル」として 7 つのコンテンツとイントロダクションをインターネットにアップしました。「ESD コーディネータープロジェクト～未来へつなぐ」のウェブサイトでご覧いただけます。youtube からアクセスできます。

ESD 映像教材

検索

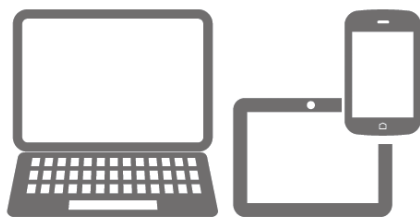
<http://www.esd-j.org/esd-co/movie>

このプロジェクトではこれまで、「コーディネーターに必要な 4 つのチカラ」の 5 タイトルと「コーディネーターとは」の 3 タイトル、加えて全体のミッションムービーを制作してきました。今話題の MOOC (Massive Open Online Courses) を意識して、いつでもだれでも見られ、繰り返し使える映像コンテンツを目指しました。

集合して同じような問題意識を持つメンバーと議論し課題に取り組む研修は、高い充実感や成果が期待できます。しかし、日程やプログラムが決まっている研修会では、どうしても都合がつかなかったり、移動のための時間的・経済的負担がかかりすぎたり、望まれる参加者がなかなか集まりにくいところがあります。そういった問題を解決する一つとして、基本的な知識や情報については事前に確認したうえで集まり、直接面対して行うことに十分時間を取ろうというのが MOOC のねらいです。

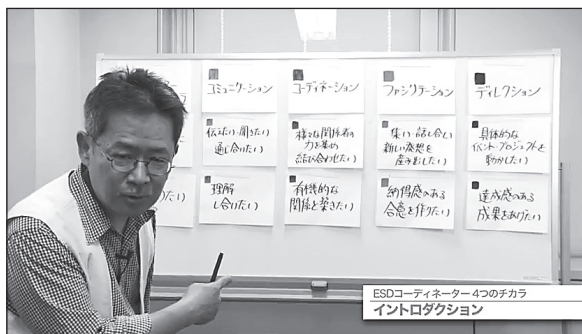
MOOC
(Massive Open Online Courses) :

研修講師があらかじめネット上に解説用の映像コンテンツを上げておき、受講者はそれを事前に見てマスターした上で教室に来て、実際の授業はそれを前提にグループでのワークやディスカッションを行う。最近では小学校でも試みられるほか、多くの場で導入が進んでいる。



ミッションムービー (2013 年 8 月公開)

ESD の実践者の皆さんから、ESD にはどんな力があるか、メッセージを集めました。何を思いながら取り組んでいるのか、「はじめての一步」に。



ESD コーディネーターに必要な力
(2013 年 8 月公開)

コーディネーターが基本の力として理解し、身につけておいてほしい 4 つの要素を、わかりやすく解説。



ESD コーディネーターのお仕事
(2013 年 8 月公開)

実際の ESD コーディネーターの仕事を、現場のプロに紹介してもらいました。

(2014年3月公開)



ESDコーディネーター研修を企画しませんか

ESD-Jは2012年から、“多様な主体の連携や協働によるESD”を生み出すカギとなる「ESDの視点を持ったコーディネーターを増やし、つなぐ」プロジェクトをスタートさせ、OJT型の研修の開発と、映像教材の開発に取り組んできました。

OJT型研修とは、集合研修とOJT（オン・ザ・ジョブトレーニング：地域での実践）を組み合わせた研修のこと。学んだことを受講者自身の現場に持ち帰り実践するパターン（岡山、北九州）と、受講者がチームになって実践を生み出すパターン（広島、茨城）が生まれています。

プロジェクトではこれらのモデル実施から、ESDコーディネーター研修のカリキュラム全体像を作成し、詳細をウェブサイト「未来へつなぐ」で公開しています（右表参照）。また、4地域の研修の概要もここからご覧いただけます。例えば広島では、右下図のような流れでOJT型研修を実施しました。ここで生まれたプロジェクトのひとつが、p2でも紹介されている「EXPO 東千田」です。

広島と茨城の研修は、事務局運営費と講師謝金を助成金と参加費で賄いました。岡山の研修は市の主催事業として実施、北九州の研修は市の協働提案プロジェクトとして採択され委託事業として実施されました。このように、コーディネーター研修の財源はさまざまです。

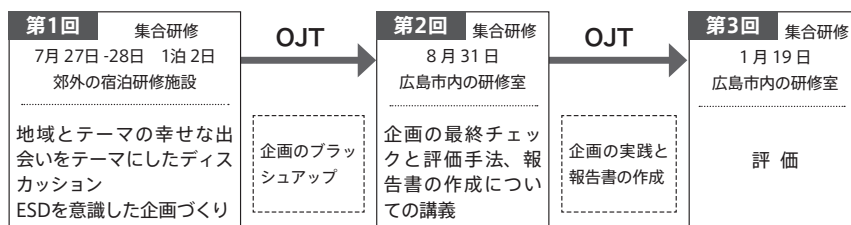
来年度、あなたの地域・団体でも、ESDコーディネーター研修を開催してみませんか？

■カリキュラム全体像概要

領域		細目	
1	ESDの視点を持つ	1-1	ESDとは
		1-2	ESDコーディネーターとは
		1-3	今の自分の活動とESDとの関係性を明確にする
2	地域の課題を知る（調査と分析）	2-1	地域を観る（DO）
		2-2	地域の課題を考える（LOOK）
		2-3	課題を深める（THINK）
		2-4	解決のための糸口を見つける（GROW）
3	課題を解決するための企画づくり	3-1	解決に向けた事業企画、ロードマップをつくる
		3-2	プログラムデザイン
		3-3	企画書を書く
4	協働と参画の進め方	4-1	多様な人を巻き込む
		4-2	実施に向けて
5	ファシリテーションのスキル	5-1	ファシリテーションの考え方
		5-2	グループワークの進め方
6	展開後のふりかえりと継続へ	6-1	成果のふりかえり
		6-2	ESDの視点によるチェック
		6-3	事後の展開に向けて

* OJT研修の開発にあたっては、以下の団体・個人の皆さまのご協力をいただいています。
北九州市、北九州サステナビリティ研究所、環境教育事務所 Leaf、岡山市、茨城NPOセンター・
commons、エコ・コミュニケーションセンター、志賀誠治氏、高田研氏、池田満之氏

■広島・地域コーディネータースクールのプログラム



●定期的なサロン（市内の事務所にて） ●Facebookグループ ●相互視察

News!

ESDコーディネーター研修の企画者を対象とした体験実習を行います。関心のある方はESD-Jまでお問い合わせください。詳細が固まりましたら、ご連絡いたします。

■日程：2015年1月19日（月）13:00～21日（水）15:00（予定）

■会場：広島市佐伯区湯来町（予定）

ESDに関するユネスコ世界会議フォローアップ会合

～これからの日本のESDがここから始まる

（11月13日 10:00～17:00 / 名古屋国際会議場）

11月10～12日に開催される世界会議の成果を共有し、これからのESDの展開に向けて考える会議。全国からESD実践者・関係者が集い、2015年以降のESD推進の方向性とその実現に向けたアクションについて議論する場です。6つのテーマのひとつが「ESDの担い手育成」。ESDの視点を持ったコーディネーターやファシリテーターの育成や活躍の場づくりについて議論します。（参加募集締め切り：10月31日、<http://www.esd-jpnatcom.jp/>）

参加者
募集中

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）

<http://www.esd-j.org/> e-mail: admin@esd-j.org

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル201

TEL: 03-5834-2061 FAX: 03-5834-2062

編集: ESD-J「未来へつなぐ」制作チーム レイアウト: 河村久美



この印刷物は、平成26年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、輸送マイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライソインキで印刷しています。